

委員からの質問・確認事項及びそれに対する回答

番号	質問・確認事項	県の回答
1	放課後児童健全育成事業に於いて、毎年の決算額を見る限り事業が拡大している事が確認出来た。ただし、多くの市町村で、支援員不足が深刻な問題となっている。千葉県として、この支援員不足の解消に向けて、市町村に働きかける施策（単独の補助を含む）や国の補助（待遇改善）を受けさせる指導等は考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童健全育成事業について、支援員確保のため放課後児童支援員認定資格研修を、支援員の資質向上・待遇改善のため放課後児童支援員資質向上研修を実施しております。また、市町村に対して、会議等を通じ、「放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業」の実施や、対象者の研修受講を働きかけているところです。 ・放課後児童支援員等処遇改善事業について、実施主体である市町村に対し、事業を周知しています。 ・令和3年3月から、ちば保育士保育所支援センターにおいて、放課後児童支援員の就業支援業務を開始し、各市町村及び事業者等に周知等しているところです。
2	先月閣議決定された国の2021年度予算案の放課後児童クラブ運営費等の主な充実事項として、「育成支援に係る体制の強化」（放課後児童クラブの育成支援の質向上を図るための、職員を加配した場合の加算）や「第三者評価受審の推進」（放課後児童クラブにおける質の向上を図るため、第三者評価を受審した場合の加算）を各市町村に取り組み様に働きかけを行う予定はあるか。特に「第三者評価受審の推進」は、千葉県が積極的に進めている支援員等の研修の結果を評価するために非常に重要であると考えている。全ての市町村で実施されるように、働きかけていただきたい。	まずは、会議等を通じ補助制度の創設について周知し、活用を促すなど、事業の実施主体となる各市町村に、働きかけてまいります。
3	【資料2】市町村の待機児童数について、①船橋市が倍以上増えてしまった要因はなにか。②木更津市、成田市、八千代市、富里市、大網白里市は、同じような数字が続いているが、次年度以降の想定はどうなるのか。	<p>【資料2】待機児童数について、①船橋市の令和2年度の保育所等待機児童が197人となり、昨年度の72人より増加した要因は、1歳児以外の年齢では昨年度よりも待機が減少したものの、1歳児についてのみ、出生数の増や市外からの流入により、減少傾向にある児童数自体が増え、さらに見込みを上回る保育所利用率の上昇により、保育ニーズが大きく増加し、受け入れ枠との乖離が大きくなり、1歳児で184人の待機となったためです。</p> <p>②令和3年4月1日時点における想定は、計画上0となっており、市町村において、施設整備や入所調整により解消を図っているところです。</p>
4	【資料3】①子ども家庭110の相談件数の中の養護（虐待含む）数の増加が気になる。担当課はどのようにとらえているのか。②【再掲】箇所は、具体的な取組が行われなかったとの認識で良いか。	<p>【資料3】①虐待等養護相談の増加については、児童虐待に対する社会全体の関心の高まりが反映されたものと考えています。千葉県においても、電話による通告や相談を促す広報啓発を行っており、その成果であるとも考えられます。（児童家庭課）</p> <p>②「再掲」箇所については、既に本掲があり、二重記載になるため「再掲」としておりますので、具体的な取組が行われていないということではございません。ただ、「本掲」に記載のあることがわかりにくいので、「千葉県子ども・子育て支援プラン2020」の進捗管理においては、改善してまいります。</p>
5	待機児童の多くが1～2歳ということは、3号認定を希望する人が利用できない状況と思う。その理由は地域によって異なると思うが、以下のどの要因が大きな障害なのか。 ①認定こども園、保育園の絶対数が不足している ②数的には足りているが、場所等の利便性から、利用者が敬遠している ③新設を予定しているけれど、地区住民の反対等で計画が進まない ④保育士等の不足により採用が困難なため、予定数の受入れができない	御指摘のとおり地域によって異なります。県全体の定員数、施設数はニーズを超えています。需給のミスマッチから、特定の地域、年齢で絶対数の不足が生じています。その意味では条件付きの①②です。また、④のように保育士等不足により受入できない児童も生じております。
6	資料1および資料2に令和2年4月1日現在の待機児童数が833人とありますが、「2020」冊子p.130の【保育所等待機児童数】の表には、資料2の新計画見込数の573人となっています。これはどういったところからこのようになっているのでしょうか。	新計画の待機児童見込数573人は、令和2年2月時点の各市町村の見込数字を取りまとめたものです。その時点では、具体的に見込めていない市町村もあり、実際に入所調整を経て算出された待機児童数が833人でした。もともと、保育ニーズが多い地域で、さらに児童数と利用率が予想以上に伸び、特定の地域における特定の年齢の利用定員の確保が追いつかなかったため、待機児童数がふくらんだものと思われま。